

取扱説明書

このたびは、弊社「4サイクル車軸式耕耘機 M62」をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。なお取扱説明書は大切に保管してください。



目次

【安全上のご注意】	1~4	【作業方法】	12~13
【仕様】	5	【保守と点検】	14
【付属品】	5	●その他の清掃	14
【各部名称】	6	●エアフィルター清掃	14
【組立方法】	7~9	●点火プラグの清掃	14
【使用前の準備】	10	●ギャケースのグリス注入	15
【使用方法】	10	●エンジンオイルの交換方法	15
●燃料の準備	10	●保管方法	16
●エンジンオイルの給油	10	●ハンドルの折りたたみ方	16
●ガソリンの給油	11	●耕刃の交換方法	17
●エンジンの始動	11	●トラブルの原因と対策	18
●エンジンの停止	11		

【安全上のご注意】

- ◆ご使用になる前に安全上のご注意を良くお読みになり正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、守らないと、人身事故や物的損害、火災に結びつく重大な内容を記載しています。
- ◆読み終わったあとは、お使いになる方がいつでも見られる場所に保管してください。
- ◆本機を譲渡される際は、必ず取扱説明書を付けてお渡しください。

●表示と意味

警告

使用を間違った場合に、人が死亡、または、重傷を負う危険・物的損害・火災の危険性が想定される内容を表記しています。

注意

使用を間違った場合に、人が傷害を負う危険性・物的損害の発生が想定される内容を表記しています。

※  注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく危険性があります。安全にご使用していただくために、いずれの注意も必ずお守りください。

※取扱上の危険についてすべての状況を予測することはできません。ここに記載した注意事項以外にも十分な配慮をしてご使用ください。

図記号の例		図記号の意味
	禁 止	行為の禁止を示します。
	強 制	行為を強制・指示する内容を示します。
	注 意	注意を促す内容を示します。

警告

・エンジンを始動させる前に、各部のネジがゆるんでいないか、オイル・グリスが入っているか・漏れていないか、損傷はないか、必ず各部の点検を行ってください。



・疲れている時や体調の悪い時、酔っぱらっている時、又は薬物を服用している時は絶対に使用しないでください。



・エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め、点検または修理を依頼してください。



・燃料はこぼさないように注意してください。こぼしてしまった場合には、こぼした燃料を良く拭き取り、完全に乾燥させてからご使用ください。



・燃料は注入口の口元一杯まで入れず、8分目程度にしてください。運転時に燃料タンクキャップから燃料が漏れる恐れがあります。



・燃料は必ず無鉛ガソリンを補給してください。
軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料・粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しますと、エンジンを損傷する原因となります。



・分解・改造は絶対にしないでください。分解・改造を行った時点で、一切の保証の対象外とさせていただきます。また、分解・改造を原因とする事故・損害などに対して、当社は一切の責任を負いかねます。



・屋内や倉庫等の換気の悪い場所では使用しないでください。また、風通しの悪い場所や排気のこもる場所では使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。



 警告

<p>・ 運転中はもちろん、使用しないときでも本機の上に物を置かないでください。破損や故障、思わぬ事故の原因となります。</p>	
<p>・ 機械の点検や修理を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。また、点火プラグからプラグキャップを外してください。</p>	
<p>・ 使用中、使用後すぐにエンジンやマフラーに触れないでください。ヤケドの原因となります。</p>	
<p>・ 運転中、高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電の恐れがあります。</p>	
<p>・ 運転操作のわからない人、指導を受けていない人、妊娠している人、お子様には操作させないでください。また本機を他の人に貸すときは取扱説明書を必ず添付してください。</p>	
<p>・ 本機に付いているカバーやラベル、その他の部品を外して使用しないでください。また、改造は絶対にお止めください。</p>	
<p>・ 燃料は非常に引火性が高く、気化した燃料は爆発事故を起こす恐れがあります。燃料補給の際は必ずエンジンを止め、エンジンが冷えた後、周りに火気が無いことを確認してから補給してください。 燃料タンクの側では絶対にタバコを吸ったり、火気や火花を近づけないでください。</p>	
<p>・ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。</p>	
<p>・ 誤って本体を落としたり、ぶついたりした場合は異常の有無を確認してください。破損や亀裂、変形が無いことをよく確認してください。ケガや火災の原因となります。</p>	
<p>・ 点検作業等を行う際は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。</p>	
<p>・ 輸送途中の衝撃等により、製品が破損したり、取付部品が曲がったり外れたりする場合がありますので、ご使用前には必ず確認して、正規の状態でご使用ください。</p>	
<p>・ 石油、シンナー、火薬等の可燃性・揮発性の液体やガス等の燃えやすいものの近くでは運転しないでください。爆発や火災の原因となります。</p>	
<p>・ 本体を車で運搬する場合は、燃料タンクに燃料が入っていない(空の状態)事を確認してください。また、本体が動かないようにしっかり固定してください。火災や事故の原因となります。</p>	
<p>・ 使用方法・作業方法・周囲状況等に十分に注意をして使用してください。軽率な行動は事故やケガの原因となります。作業場所には、作業関係者以外は近づけないでください。</p>	

⚠ 警告

<p>・夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨中や濡れた場所では使用しないでください。足元が不安定で、事故の原因となります。</p>	
<p>・使用中、機械の調子が悪かったり、異常音や異常振動等がしたときには直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。</p>	
<p>・専用の耕刃を使用してください。専用の耕刃以外の物を使用すると、事故やケガの原因となりますので使用しないでください。少しでも曲がり、歪み、亀裂、折れ、損傷のある耕刃は新品と交換してください。耕刃の取り付け、取り外しの際は、手袋を着用してください。ケガの原因となります。</p>	
<p>・斜面での使用は危険ですので、絶対に行わないでください。</p>	
<p>・作業中は、ハンドルをしっかり持ち、正しい姿勢で作業をしてください。常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。転倒するなど、思わぬ事故の原因となります。</p>	
<p>・二人以上で作業をする場合は安全な距離を保ってください。飛散物等が当たる、思わぬ事故、ケガの原因となります。</p>	
<p>・換気の悪い場所では作業を行わないでください。一酸化炭素中毒になる恐れがあります。</p>	
<p>・修理は必ずお買い求めの販売店、または弊社のお客様相談窓口までご依頼ください。ご自身で修理をすると、事故やケガの原因となります。</p>	
<p>・本機を使用しない場合は、燃料を抜き、お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。</p>	
<p>・回転中の耕刃には、近づいたり、絶対に触れたりしないでください。ケガなど事故の原因となります。</p>	
<p>・給油した場所でエンジンを始動させない、少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。</p>	
<p>・次の場合は、エンジンを停止させ耕刃の回転が止まるのを確認してください。本体が動いたままでは、思わぬ事故の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●危険を感じた場合、危険が予想される場合 ●本体に巻き付いたゴミや草を取り除く場合 ●作業場所の障害物を取り除いたり、作業で発生したゴミ・草等を運ぶ場合 ●耕刃の交換、その他の点検を行う場合 ●使用しない場合 	
<p>・運転中は、燃料キャップを外さないでください。</p>	
<p>・耕刃に草などが巻きついたときには、必ずエンジンを停止させ、耕刃の回転が停止したことを確認してから草などを除去してください。草などを取り除いたはずみで不意に耕刃が回転し、ケガの原因になります。</p>	

 警告

・作業しない時や、抵抗棒、タイヤの切り換え、各部の清掃を行うときは必ずエンジンを停止させてください。



・指定の付属品、アタッチメント以外は使用しないでください。事故やケガの原因になります。



 注意

・燃料系統の部品に異常が無いかを定期的に点検してください。



・使用時、燃料は常に新しい物を使用してください。古い燃料を使用していると、運転が不調になる原因となりますので絶対に使用しないでください。



・リコイルスターターや冷却フィンの周りについてゴミは取り除くようにしてください。また、定期的エアフィルター清掃を行ってください。



・作業するときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、身体にあったものを着用してください。



・作業をする場所の石、カン、ビン、コンクリート、針金など、落ちている物を取り除いてください。また、木の根や岩のある場所では作業しないでください。耕刃の損傷やケガの原因となります。



・耕刃は必ず指定のものを確実に取り付け、損傷や変形などの異常がないか確認してから使用してください。異常がある状態で使用するとケガの原因となります。



・長期間の保管の際は、燃料タンク・キャブレター内の燃料を抜いてください。各部の清掃をきちんと行い、金属部分には薄くオイルを塗ってください。



○騒音防止規制

・騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。

※注意に表記してあるものでも状況によっては、死亡・重傷等、重大な事故につながる恐れがありますので必ず守ってください。

【仕様】

エンジン形式	空冷4サイクルガソリンエンジン
使用燃料	無鉛ガソリン
排気量	125mL
出力	2.3kW (3.1PS) / 3500min ⁻¹
燃料タンク容量	800mL
始動方式	リコイルスターター
点火プラグ	TORCH:F7RTC / 互換品 NGK:BPR7ES
耕幅	620mm
耕深	200mm
刃形	ナタ爪刃
爪径	Φ275mm
騒音値	約86dB
本体寸法	W660mm×D1070mm×H940mm
質量	約30kg

※仕様・外観等は改良等のため、予告なく変更することがあります。

【付属品】 ※大きさは実寸比と異なります。



本体×1



タイヤ×1



フロントハンドル×1



耕刃(L)×1

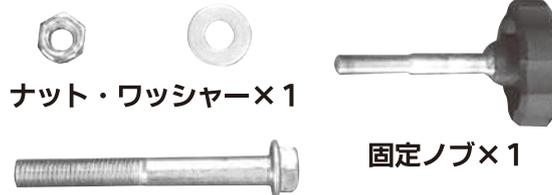
耕刃(R)×1

フロントハンドル固定用



ナット・ボルト(M8×40)×2

ハンドル固定用

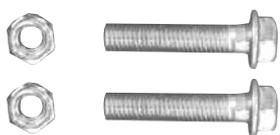


ナット・ワッシャー×1

固定ノブ×1

ボルト(M8×70)×1

耕刃取付用



ナット・ボルト(M8×40)×2



ロックピン×1



結束バンド×2 (予備)



スパナ (10/12mm) ×1

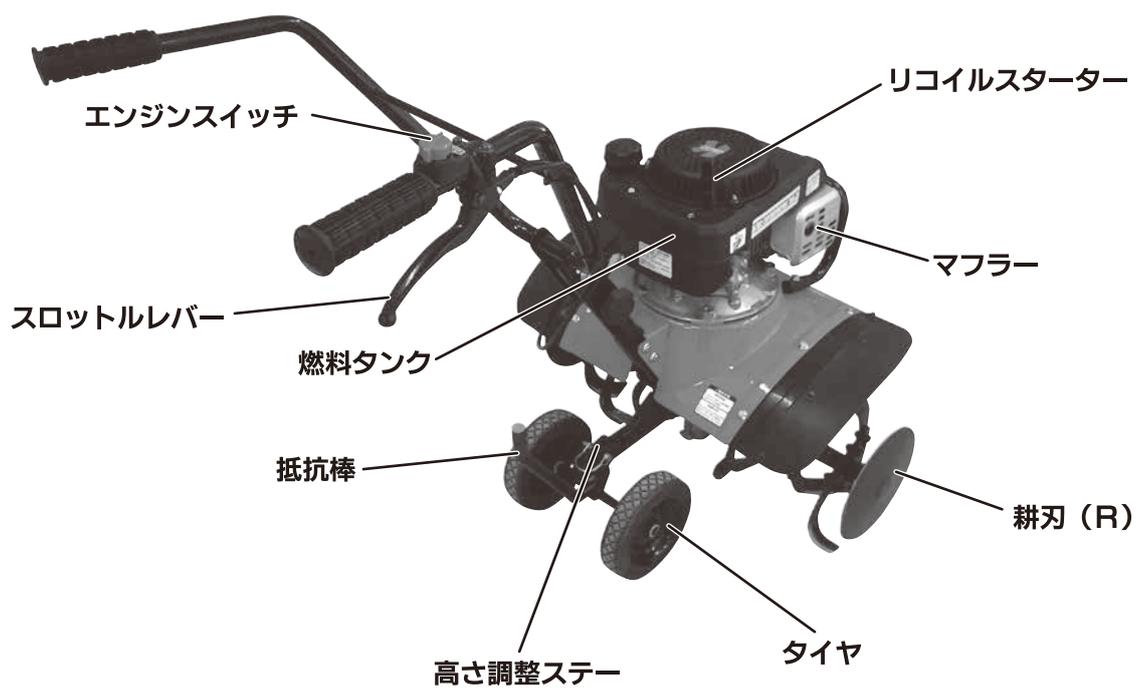
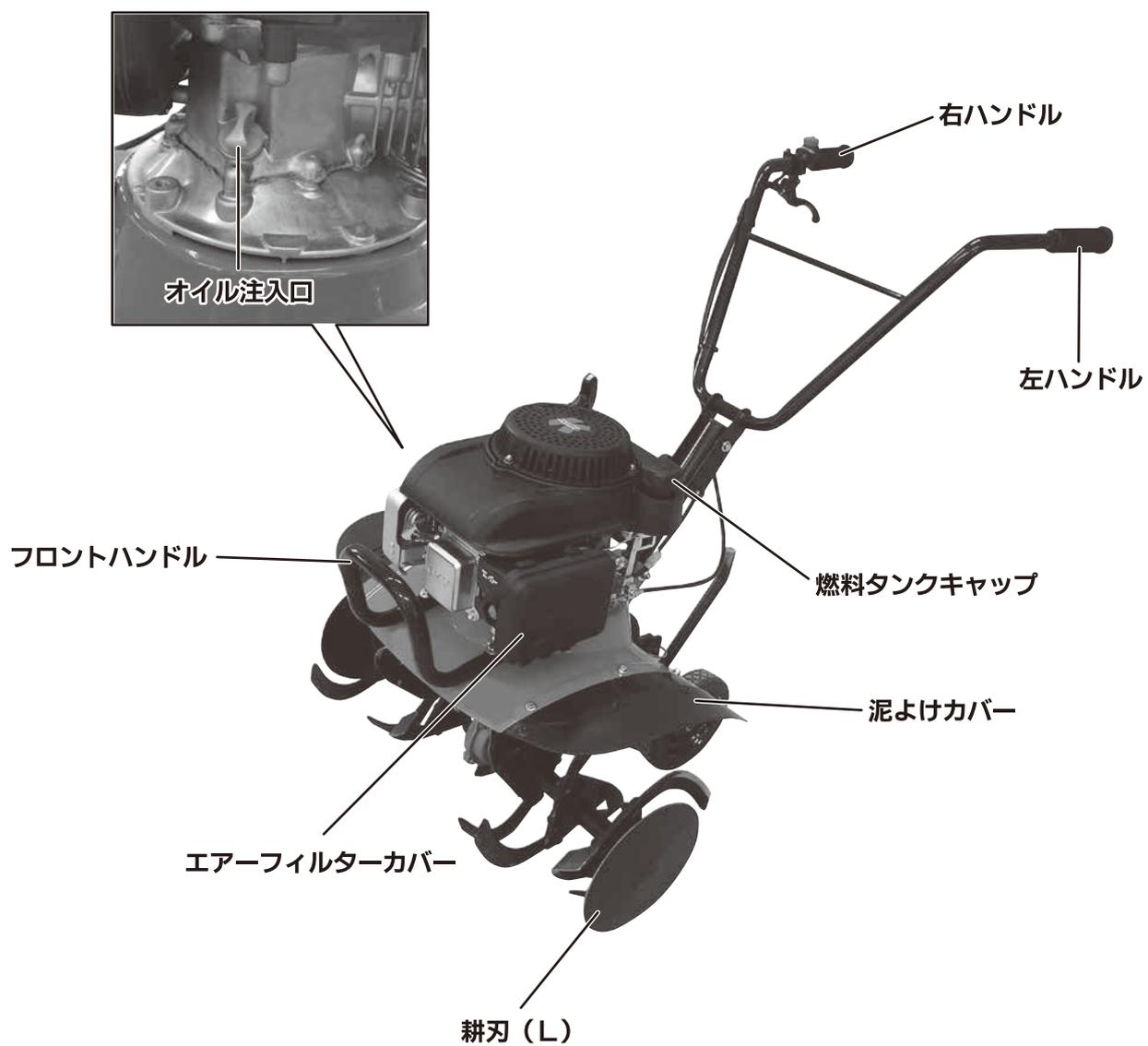


スパナ (13/16mm) ×1



プラグレンチ×1

【各部名称】

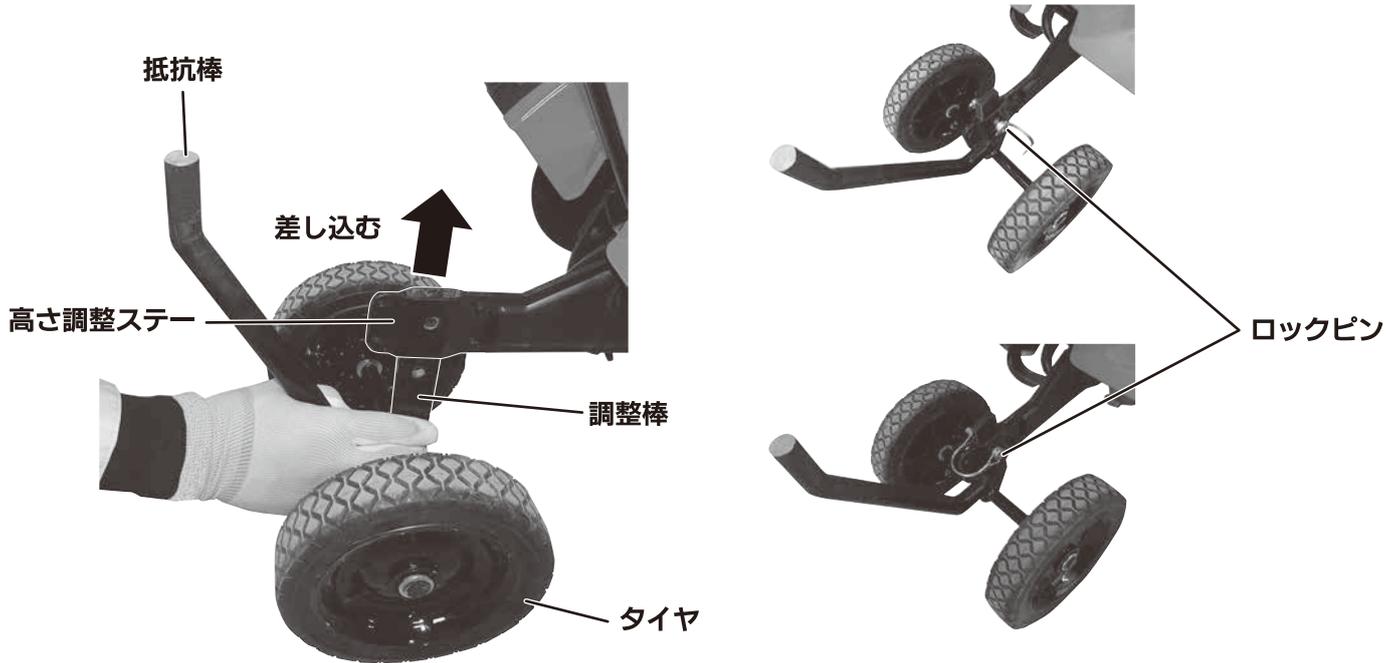


【組立方法】

●タイヤの取付方法

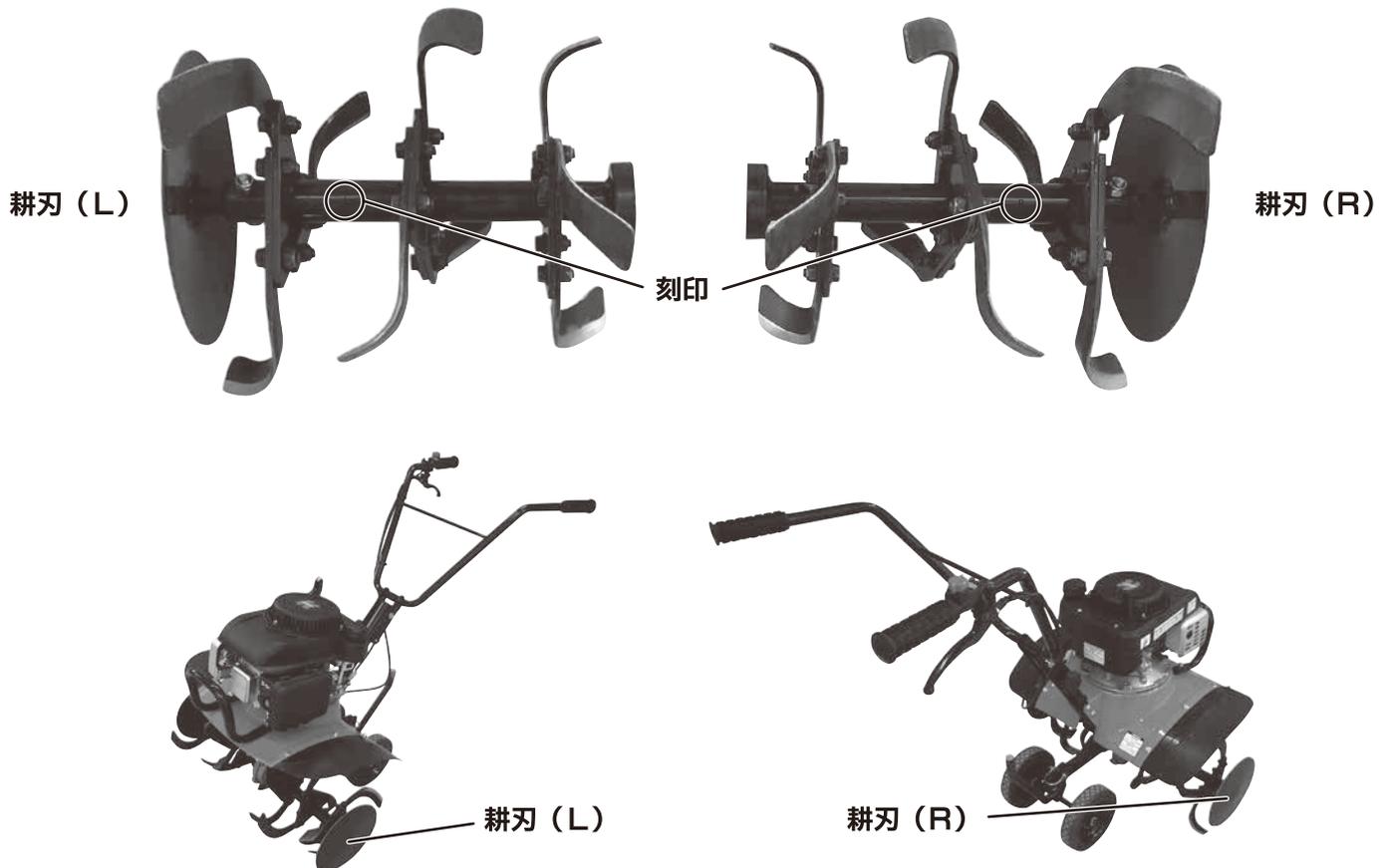
①本体下部後側の高さ調整ステーにタイヤの調整棒を差し込みます。

②任意の高さにロックピンを差し込み、高さ調整ステーと調整棒を留めます。



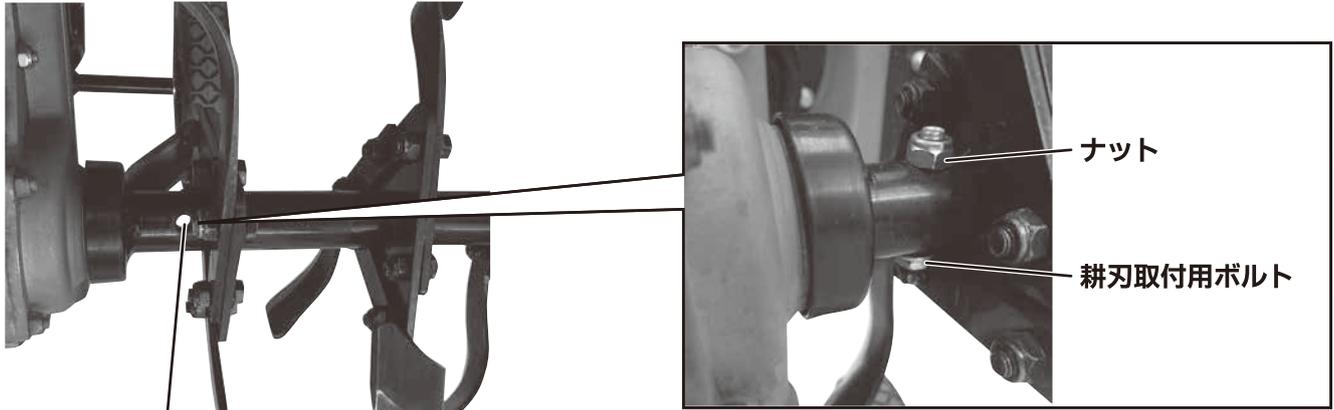
●耕刃の取付方法

・耕刃には左右があります。取り付け時に刻印を確認して取り付けてください。



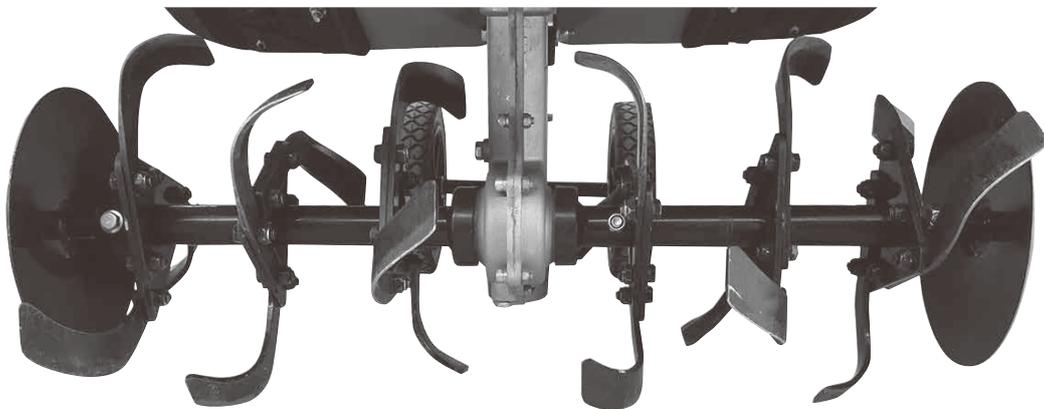
- ①本体下部前側のシャフトに耕刃を差し込み、穴位置を合わせます。
※下記写真は耕刃（L）の取り付けイメージです。

- ②耕刃取付用ボルトを差し込み、ナットでしっかりと締めつけます。



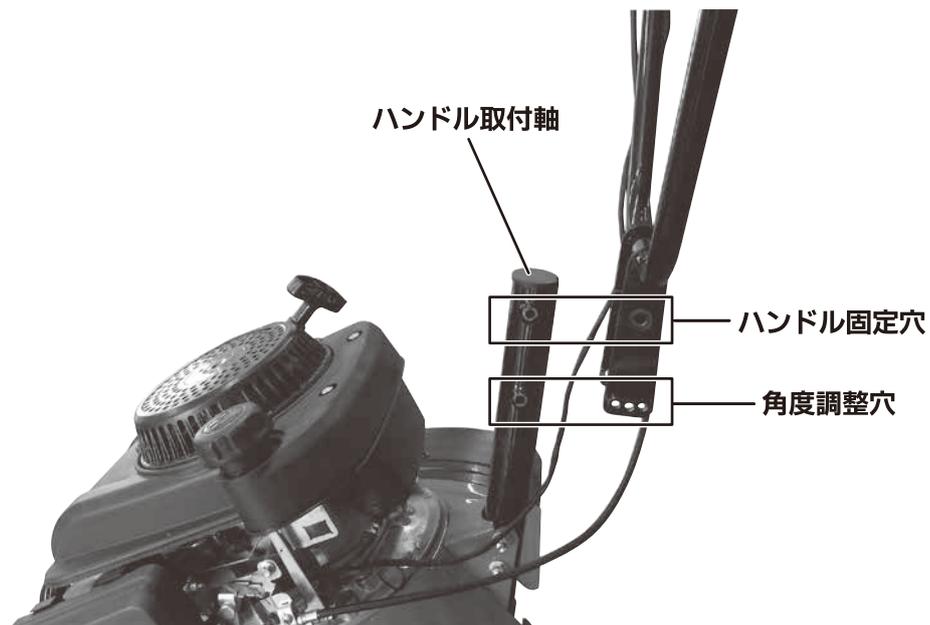
穴

- ③反対側も同じようにして耕刃を取り付けます。



●ハンドルの取付方法

- ①本体後部のハンドル取付軸にハンドルを合わせ、各穴（ハンドル固定穴・角度調整穴）位置を合わせます。
※角度調整穴は使いやすい角度に合わせてください。



②角度調整穴を使いやすい角度に合わせて固定ノブを差し込み、しっかりと締め付けます。

③ハンドル固定穴にハンドル固定用ボルトを差し込み、ワッシャー・ナットでしっかりと締めつけます。



④コネクターを接続します。

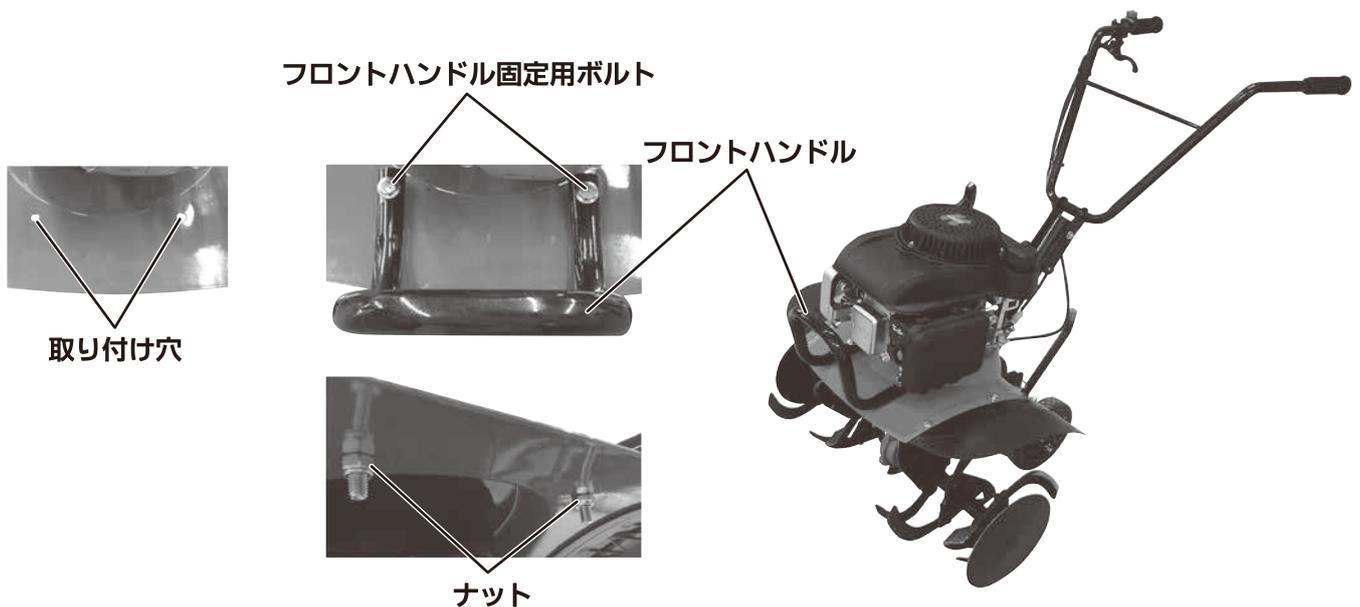
※たるんでいるケーブルが気になるときは、付属の束線バンドでハンドルなどに固定してください。

※束線バンドは締め付けた後、余分な部分は切り取ってください。



●フロントハンドルの取付方法

・本体前部の取り付け穴にフロントハンドルを合わせ、フロントハンドル固定用ボルトとナットでフロントハンドルを取り付けます。



【使用前の準備】

●作業場所の整備

- 作業をする場所に障害物(缶・ビン・石・針金・ひもなど)が落ちていないか確認してから作業をしてください。
また、木の根が這った場所や岩のあるところ、水中では使用しないでください。耕刃の損傷やケガの原因となります。



【使用方法】

●燃料の準備・給油

⚠ 警告

- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼしてしまった場合には、こぼした燃料を良く拭き取り、完全に乾燥させてからご使用ください。
- 給油を行うときは、火気の無い場所で行ってください。タバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけないでください。火災・爆発・ヤケドの原因となります。
- エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料が残っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。肌についたり目に入った場合はただちに流水で充分洗い流し、体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

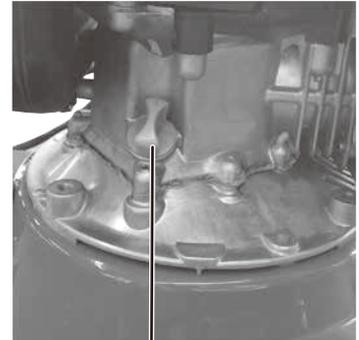
⚠ 注意

- 燃料は、作業に必要な量をその都度準備してください。1ヶ月以上経過した燃料は揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因になります。
- 作業終了後、使用しないときは燃料をタンクから抜いてください。故障の原因となります。
- 燃料は、燃料タンクの口元いっぱいまで入れないで、8分目位までとしてください。
- 燃料はガソリン専用の容器に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。

●エンジンオイルの給油

重要

出荷時はエンジンオイルが入っていませんので、必ずエンジンオイルを入れてから使用してください。エンジンオイルを入れない状態で運転するとエンジンの故障につながる恐れがあり、保証の対象外となります。

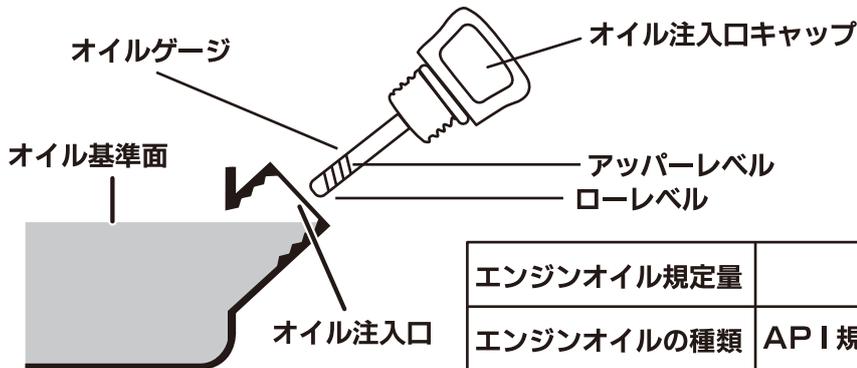


オイル注入口キャップ

- ① オイル注入口からオイルジョッキ（市販品）等を使用して、エンジンオイルを規定量入れてください。

※ オイル注入後、オイル注入口キャップを一度締めてから取り外して、オイルゲージのアップーレベルまでオイルが付いていることを確認してください。

- ② 注入後は、オイルキャップをしっかりと締めてください。



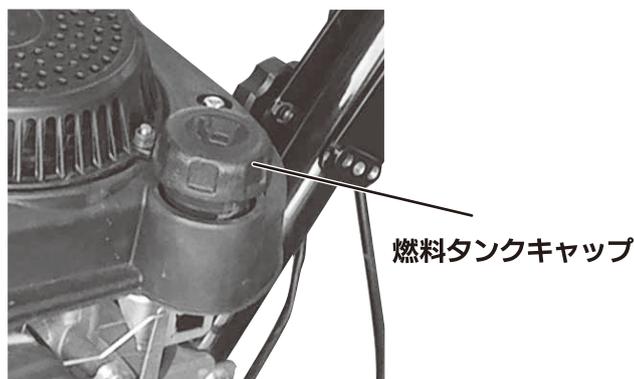
エンジンオイル規定量	400mL
エンジンオイルの種類	API規格SFクラス以上SAE粘度分類 10W-30 10W-40

※ オイルは使用しなくても自然に劣化しますので、定期的に変換してください。（初回は運転時間20時間程度、その後は6ヶ月毎もしくは運転時間50時間程度を目安にして交換してください。）

※ 廃油は法令に従って適切に処理してください。不法投棄は絶対にしないでください。

●ガソリンの給油

- ①燃料タンクキャップを回して外し、無鉛ガソリンを給油します。
- ②給油後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
※口元一杯まで入れないで、8分目程度にしてください。



●エンジンの始動

⚠ 警告

- ・エンジンを始動させる前に必ず各部の点検を行ってください。
- ・疲れている時や体調の悪い時、酔っ払っている時、又は薬物を服用している時は絶対に使用しないでください。
- ・エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め、点検又は修理を依頼してください。
- ・屋内や倉庫等の換気の悪い場所では使用しないでください。また、風通しの悪い場所や排気のこもる場所では使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。
- ・燃料を給油した場所でエンジンを始動させない、少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。

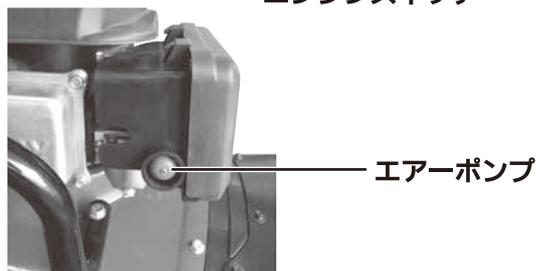
⚠ 注意

- ・エンジンが始動すると同時に耕刃が回転する場合がありますので注意してください。
- ・エンジンは平らで安定した場所で始動してください。

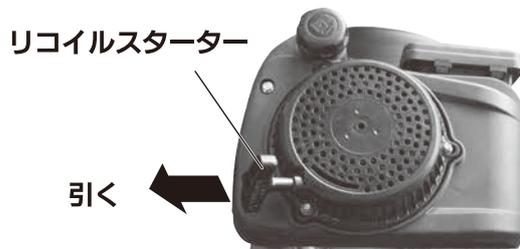
- ①エンジンスイッチを「入」にします。



- ②エアープンプを3回ゆっくり押します。
※押しすぎるとエンジンがかかりにくくなったり、ガソリンがこぼれることがあります。



- ③リコイルスターターを引きエンジンを始動します。



●エンジンの停止

- ・エンジンスイッチを「切」にしてエンジンを停止します。



【作業方法】

⚠ 警告

- ・使用後すぐにエンジンやマフラーに触れないでください。ヤケドの原因となります。
- ・作業をする時は、必ず両手でしっかりハンドルを持ってください。
- ・二人以上で作業をする場合は安全な距離を保ってください。
飛散物等が当たる、思わぬ事故、ケガの原因となります。
- ・回転速度をむやみに上げないでください。回転速度を上げる場合は急に上げずに、徐々に回転を上げてください。回転速度を急に上げると飛散物が飛び散る等、思わぬ事故の原因となります。
- ・耕刃に石や異物が挟まったり、草などが巻き付いて耕刃の回転が止まった時は、必ずエンジンを停止させてから、これらの物を取り除いてください。エンジンが回っている時にこれらの物を取り除くと、不意に耕刃が回りケガの原因になります。
- ・本機を前後に必要以上に傾けたり、傾斜状態での運転は避けてください。

⚠ 注意

- ・作業をする場所の石、カン、ビン、コンクリート、針金など、落ちていた物を取り除いてください。また、木の根や岩のある場所では作業しないでください。耕刃の損傷やケガの原因となります。
- ・耕刃は、確実に取り付けられているか、損傷や変形などの異常がないか確認してから使用してください。異常がある状態で使用するとケガの原因となります。
- ・作業時は、土の質や地面の硬さによって回転速度を調整してください。あまり高速回転で作業をすると一箇所を深く掘ってしまいます。
- ・燃料は少なくなってきたら早めに補給してください。
- ・時々ハンドル固定用ノブを調べ、緩んでいたら増し締めをしてください。

①作業場所を整備します。(P10「●作業場所の整備」参照)

②燃料を入れます。(P11「●ガソリンの給油」参照)

③作業をする時は、抵抗棒を下に付け替えてください。
※作業環境によって抵抗棒の高さを調整します。ロックピンを外し、高さ調整をしてください。

④ハンドルはお好みの角度（三段階）に調節して使用できます。



⑤エンジンを始動します。(P11「●エンジンの始動」参照)

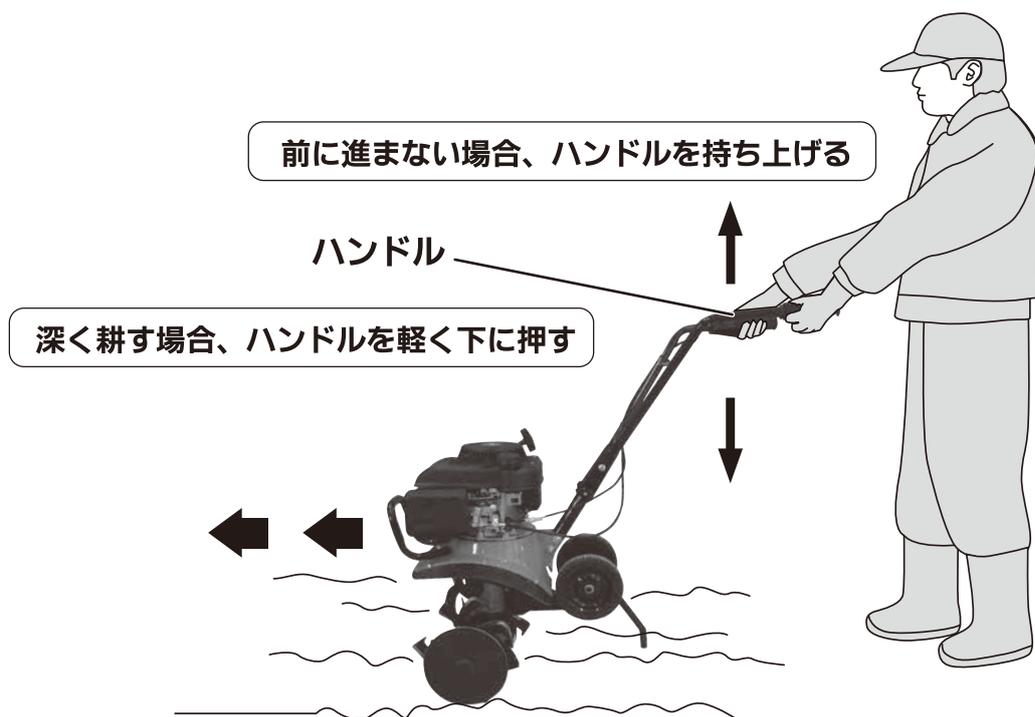
⑥スロットルレバーを握って、ハンドルをしっかりと持って、耕耘作業をします。
※2～3分低速で暖機運転してから作業を始めてください。

<浅く耕したい時>

- ・浅く耕す時は、スロットルレバーを握って、早めに前進します。
- ・深く掘りすぎて前に進まない場合は、耕刃を回転させた状態でハンドルを少し持ち上げると前進しやすくなります。
- ・土が硬く前に進みすぎてしまう場合は、抵抗棒を下げてください。
- ・※硬い土を耕す時は、不意に本体が跳ね上がることがありますので、様子を見ながら加減をして作業を行ってください。

<深く耕したい時>

- ・深く耕す時は、ハンドルを軽く下に押すようにしてゆっくりと前進させます。
- ・土が軟らかく沈んで前に進まない場合は、抵抗棒を上げてください。



<旋回の仕方>

- ・スロットルレバーを軽く握って旋回してください。
- ・※旋回するときは足元を確認して耕刃に巻き込まれないようにしてください。

<停止の仕方>

- ・スロットルレバーを離し、エンジンスイッチを切にします。
- ・※本機を止めるときは、平坦な場所を選んでください。
- ・※燃えやすいものの近くには止めないでください。
- ・※エンジンが熱いときは、保護用カバーなどをかけないでください。火災の原因になります。

【保守と点検】

警告

- ・整備・点検・修理・燃料補給を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。また、点火プラグからプラグキャップを外してください。
- ・エンジン停止後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。
- ・定期的にマフラーの点検、各部ナット・ネジのゆるみがないかの確認、燃料漏れの確認をしてください。

●エアフィルターの清掃



フィルターカバー



エアフィルター



・エアフィルターの汚れは定期的に確認してください。汚れている場合には、下記の手順で清掃を行ってください。

- ①フィルターカバーを外し、エアフィルターを外します。
- ②エアフィルターの内側方向からコンプレッサーなどでエアを吹きつけるか、軽く叩いてゴミやホコリを払ってください。
※汚れがひどい場合はエアフィルターを新しい物と交換してください。
※エアフィルターが汚れていると、エンジンの始動不良や出力不足等の原因となりますので、エアフィルターはきれいにしておいてください。
- ③清掃が終わったら取り外したときと逆の手順で取り付けます。

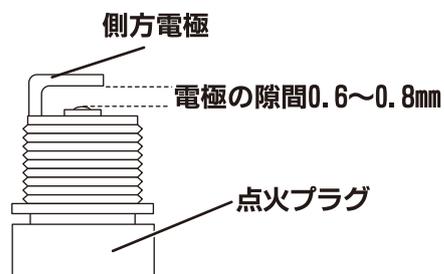
●点火プラグの清掃

- ①プラグキャップを外し、付属のプラグレンチで点火プラグを外します。
- ②電極が汚れている場合には、プラグ用クリーナー・ワイヤーブラシ等でカーボンを落とすか点火プラグを交換してください。
※電極の隙間が大きい場合には、側方電極を曲げて、隙間の調整を行ってください。
※故障の原因となるので、標準プラグ以外は使用しないでください。
※点火プラグのネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締めつけてください。
※点検・調整後はプラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

プラグキャップ



点火プラグ



標準プラグ TORCH : F7RTC

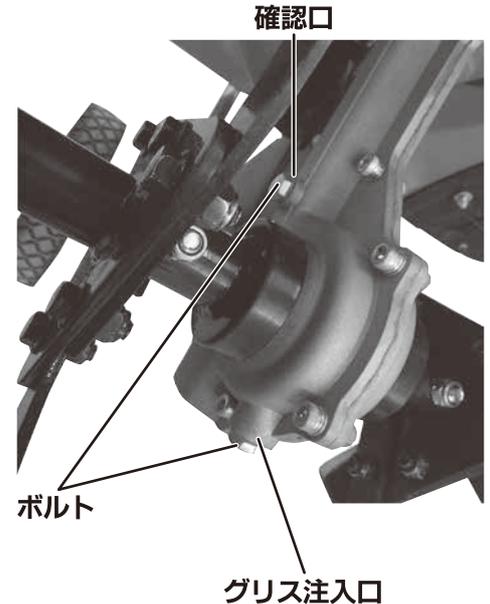
●その他の清掃

- ・各部に付いたゴミやホコリはしっかりと拭き取ってください。また、水洗いする場合は、泥よけカバーより上に水がかからないようにしてください。
- ※耕刃を外してギヤケース部分に直接高圧水をかけないでください。ギヤケースの破損による故障の原因になります。
- ※水中に浸けての清掃は、絶対にしないでください。ギヤケースが損傷する恐れがあります。

●ギヤケースのグリス注入

- ・ギヤケースには定期的にグリスを注入してください。

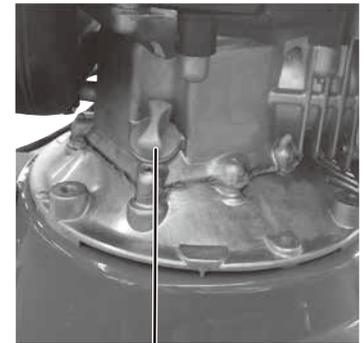
- ①確認口のボルトを外します。
- ②グリス注入口のボルトを外します。
- ③グリスガン(市販品)等でグリス注入口からグリスを注入します。確認口の穴からグリスが出てくるまでグリスを注入してください。
※使用するグリスは、リチウムグリスNo. 0と同等の物を使用してください。



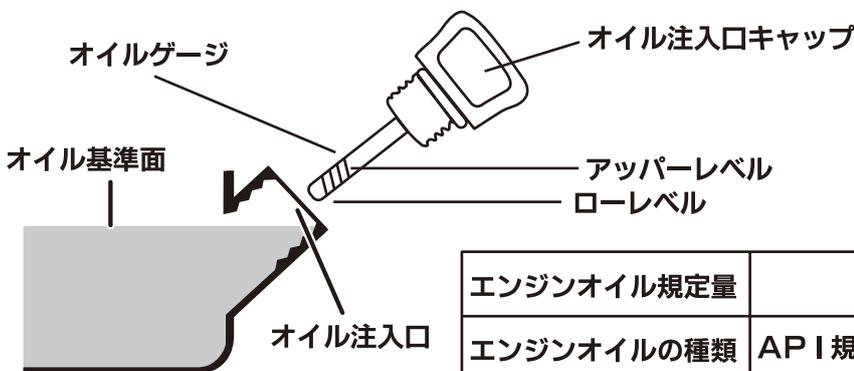
●エンジンオイルの交換方法

- ※必ず燃料を抜いて行ってください。(P16「●保管方法」参照)
- ※オイルを抜く際は、容器(市販品)等を用意して、周囲にオイルがこぼれないようにしてください。
- ※廃油は法令に従って適切に処理してください。不法投棄は絶対にしないでください。

- ①オイル注入口キャップを外し、給油ポンプ(市販品)でオイルを抜きます。
- ②残ったオイルは本体を横に倒して用意した容器(市販品)に入れてください。
- ③オイル注入口からオイルジョッキ(市販品)等を使用して、エンジンオイルを規定量入れてください。
※オイル注入後、オイル注入口キャップを一度締めてから取り外して、オイルゲージのアップーレベルまでオイルが付いていることを確認してください。
- ④注入後は、オイルキャップをしっかりと締めてください。



オイル注入口キャップ



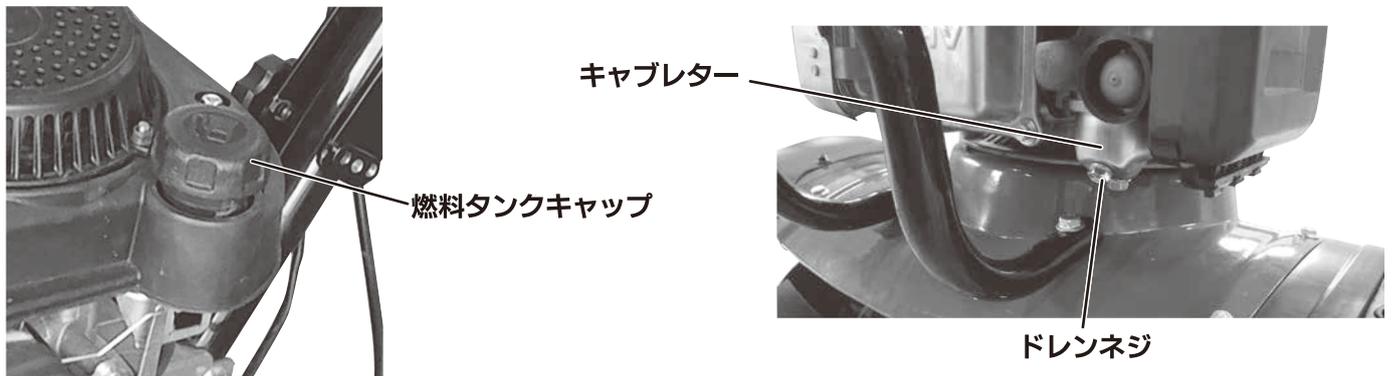
エンジンオイル規定量	400mL
エンジンオイルの種類	API規格SFクラス以上SAE粘度分類 10W-30 10W-40

- ※オイルは使用しなくても自然に劣化しますので、定期的に変換してください。(初回は運転時間20時間程度、その後は6ヶ月毎もしくは運転時間50時間程度を目安にして交換してください。)
- ※廃油は法令に従って適切に処理してください。不法投棄は絶対にしないでください。

●保管方法

- ・長期間(30日以上)使用しない場合には、燃料タンク及びキャブレター内の燃料を抜いてください。
- ※キャブレター内に燃料を残したままにしておきますと、キャブレター内の詰まり、作動不良等の原因となります。
- ※燃料を抜く際は、容器(市販品)等を用意して、周囲に燃料がこぼれないようにしてください。
- もしもこぼしてしまった場合には、こぼした燃料を良く拭き取り、完全に乾燥させてから保管してください。

①燃料タンクキャップを外し、給油ポンプ(市販品)で燃料を抜きます。残量分は、キャブレターのドレンネジを外し、容器(市販品)に出してください。



②燃料が抜き終わったら、ドレンネジを締めて、燃料タンクキャップを元通りに取り付けます。

③最後にエンジンが自然に停止するまで低速で運転をさせてください。

④リコイルスターターをゆっくり引き、圧縮のあるところ(重くなったところ)で止めてください。

⑤各部についたゴミやホコリをしっかりと拭きとってください。水洗いする場合は、泥よけカバーより上に水がかからないようにしてください。

⑥各部の清掃をきちんと行った後、金属部分には薄くオイルを塗ってください。

※耕刃を外してギヤケース部分に直接高圧水をかけないでください。ギヤケースの破損による故障の原因になります。

※水中に浸けての清掃は、絶対にしないでください。ギヤケースが損傷する恐れがあります。

※保管の際はお子様が触れることのできない場所に保管してください。

湿気の高い場所・雨等の水がかかる場所・直射日光のあたる場所は避けて、高温にならない乾燥した場所に保管してください。

※燃料は、屋内の火気の心配のない、冷たい乾燥した場所に安全な容器に入れて保管してください。古くなった燃料は故障の原因となりますので絶対に使用しないでください。

※本機は、タイヤをおろした状態で水平にして保管してください。横倒しや前後に倒しての保管はしないでください。

●ハンドルの折りたたみ方

・固定ノブを取り外し、折りたたみます。

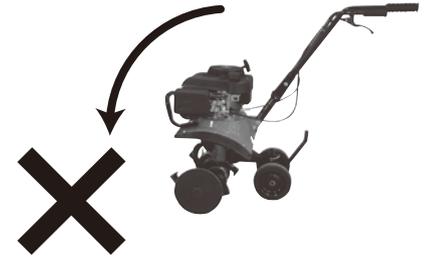
※ハンドルを倒した後、固定ノブはハンドル取付軸に取り付けてください。



●耕刃の交換方法

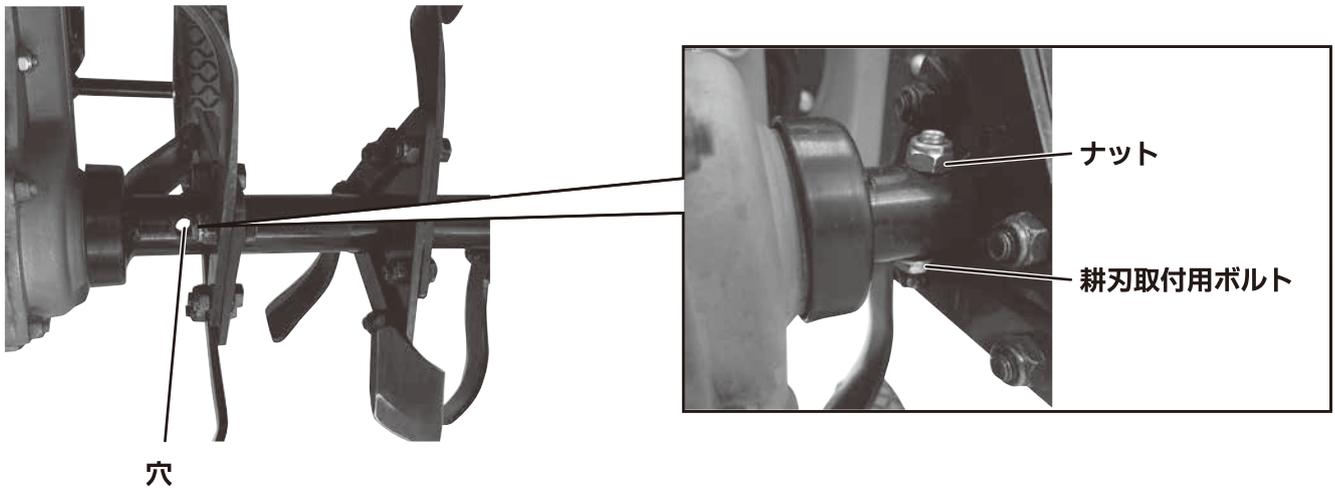
⚠ 注意

- ・ 耕刃を交換する際は、必ず燃料を抜いて行ってください。
- ・ 耕刃を交換する際は、必ず手袋を着用してください。ケガの原因となります。
- ・ 耕刃を交換する際は、必ずエンジンを停止し、本体が冷えてから行ってください。ヤケド・ケガの原因となります。
- ・ 交換後は、確実に取り付けられているか点検をしてください。事故やケガの原因となります。
- ・ 本体を前倒しにして作業をしないでください。燃料を抜き、後ろ倒しで作業してください。



①本体下部前側のシャフトに耕刃を留めている耕刃取付用ボルト・ナットを外して耕刃を取り外します。

②新しい耕刃に付け替えます。(P7「●耕刃の取付方法」を参照)



●トラブルの原因と対策

⚠ 注意

- ・本機の修理は、必ずお買い求めの販売店へお申し付けください。
- ・運転中、本機の調子が悪かったり本機に異常を感じたときは、ただちに使用を中止してください。
- ・取扱説明書の説明以外の分解・修理および改造は絶対に行わないでください。

状 態	原 因	対 策
エンジンが始動しない、 またはすぐ停止する	燃料が無い・古い	新しい燃料を補給する・新しい燃料を入れる
	エンジンスイッチが「切」になっている	エンジンスイッチを「入」にする
	点火プラグから火花が出ない	点火プラグの清掃・調整もしくは交換をする (P14●点火プラグの清掃) 参照
	エアフィルターが詰まっている	フィルター類を清掃もしくは交換をする
	燃料の吸い込み過ぎ	点火プラグを外してリコイルスターターを5・6回引き、点火プラグの電極部を乾かしてから点火プラグを装着して、再度エンジンを始動させる
	暖機不足	暖機運転をする(P12【作業方法】参照)
	エンジンが故障している	お買い求めの販売店に相談をする
エンジンの出力不足 および回転が不安定	エアフィルターが詰まっている	フィルター類の清掃もしくは交換をする
	点火プラグの汚れ	点火プラグの清掃・調整もしくは交換をする (P14●点火プラグの清掃) 参照
エンジンが停止しない	スイッチ端子の不良・汚れもしくはスイッチリード線の不良	お買い求めの販売店に相談をする
耕刃が回転しない	耕刃が正しく装着されていない	耕刃を確実に取り付ける
	耕刃に異物が引っ掛かっている	異物を取り除く
本体が異常に振動する	耕刃が破損(割れ・歪み・摩耗)している	新しい耕刃に交換する
	ハンドル、その他の締め付け部分の緩み	しっかり増し締めをする
	耕刃に異物が引っ掛かっている	異物を取り除く

※上記の表は簡単な異常に対しての対策のみを記載しておりますので、わからない点や複雑な異常については、お買い上げいただきました販売店へご相談ください。

株式会社 ナカトミ

〒382-0800 長野県上高井郡高山村大字高井6445番地2

●製品についてのお問い合わせは「お客様相談窓口」までご連絡ください。

お客様相談窓口 TEL.026-245-3105 FAX.026-248-7101

受付時間10:00～12:00 13:00～17:00(土・日・祝日を除く)

※製品は改良等のため予告なく外観・仕様等を変更することがあります。